

代 表 者



視 察 報 告 書

令和7年11月 5日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

北川一清

岩原 昇

井手畑隆政

沖田 範彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和7年10月30日(木)～令和7年10月31日(金)

2. 調査項目

「中核市サミット2025 in 福井」

(福井県福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザにて開催)

3. 参加議員

北川一清、岩原 昇、沖田範彦、井手畑隆政

4. 用務の経過

別紙のとおり

【用務の経過】

1 中核市サミット2025 in 福井

テーマ

「幸福を実感できる中核市の実現～一人ひとりが紡ぐ希望あふれるまちづくり～」

(1) 日時

令和7年10月30日 12時45分～17時

(2) 場所

福井県福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ



(3) プログラム及び登壇者

オープニング 福井県立福井商業高校チアリーダー部 J E T S



主催者挨拶 中核市市長会会長

開催市歓迎挨拶

来賓祝辞

豊中市長 長内 繁樹 氏

福井市長 西行 茂 氏

総務省自治行政局長 小川 康則 氏

中核市市長会相談役 香山 充弘 氏

福井県副知事 鷲頭 美央 氏



講師・来賓・コーディネーター・コメンテーター紹介

基調講演 「地域から新しい日本をつくる」

東京大学社会科学研究所

教授 宇野 重規 氏

パネルディスカッション（3会場に分かれて実施）

第1会場 「スポーツを通じた楽しいまちづくり」

コーディネーター 福井工業大学工学部建築土木科 教授

吉村 朋矩 氏

コメンテーター 日本経済研究所 執行役員

小原 爽子 氏

パネリスト 富山市長、西宮市長、福井市長

第2会場 「地域に密着した安心な福祉体制のあり方」

コーディネーター 福井県立大学社会福祉学科 准教授

永井 裕子 氏

コメンテーター 福井大学大学院工学系部門 准教授

菊池 吉信 氏

パネリスト 岐阜市長、豊田市長、松江市長

第3会場 「元気Xイノベーション」 ～未来を創る地域づくり～

コーディネーター 仁愛大学コミュニケーション学科特任教授 南保 勝 氏

コメンテーター 福井商工会議所／福井県経済団体連合会 嶋田 浩昌 氏

パネリスト 山形市長、八王子市長、吹田市長

全体会議・閉会式

各コーディネーターによるパネルディスカッション報告

サミット宣言

次回開催地挨拶

中核市市長会監事 旭川市長

今津 寛介 氏

閉会挨拶

中核市市長会副会長 松山市長

野志 克仁 氏



(4) 参考資料（当日配布資料…添付）

- ・中核市サミット2025 in 福井 Program
- ・中核市サミット2025 in 福井 パネルディスカッション資料

(5) 調査内容

<基調講演>

「地域から新しい日本をつくる」～中核市に何ができるか～

東京大学 社会科学研究所 教授 宇野 重規 氏

- ・人口減少を止められなかった10年、コロナ以前の出生数に戻っていない現状
- ・人口予測の根拠は、出産年齢女性の人口
- ・「子育てしやすいまち」による地域間の人の奪い合いに意味があるのか
- ・民主主義に適した人口と未来像を考えたい

・課題

- 人口減少地域を災害が襲う
- 東京の災害は巨大化している
- 災害の復旧・復興についての基本計画が必要
- 多死社会を迎え、相続問題・空き家問題は大きな課題

・令和臨調第三部会の経緯

- 令和臨調とは、日本社会と民主主義の持続可能性を考える国民会議
- 2023.7.5 第一次提言「人口減少問題を直視せよ」
- 2025.2.5 第二次提言「日本を解き放ち、組み替える」
- 地域のポテンシャル解放を考えたい
- 複数居住地、所有と利用の分離、デジタル公共基盤、分散と集約 など

・複数居住地

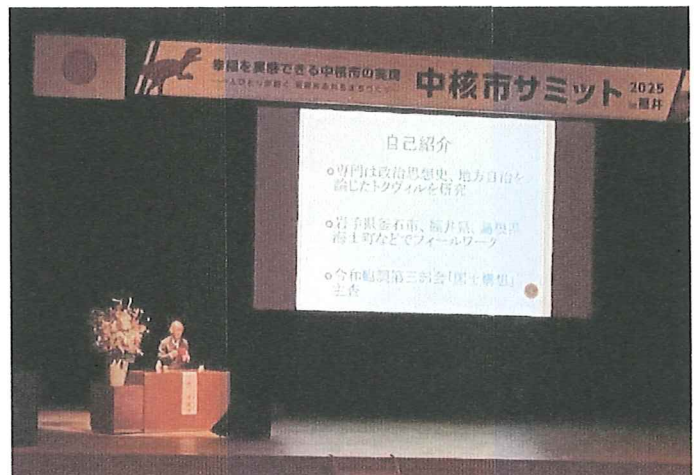
- 副業・兼業・社会貢献など人と地域の関わり方が変わる
- 住所は一ヶ所であるべきか
- サービス提供と負担の矛盾（例 ふるさと納税）
- 住民票や税制など全体的な改革が必要ではないか

・所有から利用へ

- 空き家、空き地、放置山林、農地などの活用を考える
- 「所有者不明土地」がすべてのネックになる
- 災害時・災害復興時にも所有権は障害となる
- 日本の「所有権絶対神話」をどうするかが課題

・国と地方の役割の再定義

- 日本の地方自治体は「自前主義」（すべて自分でフルセット持つ傾向にある）



- 共通のプラットフォームの上に、地域の個性を咲かすことはできないか
- 住民サービス「作り込み」の弊害
- デジタル技術による「組み合わせ」
- ・DXの本質
 - DXの本質は単なるデジタル化ではなく、行政機構のあり方をユーザー中心に変革することにある
 - 政策の起点を「作る側」から「受け取る側」へ転換すべき
- ・デザイン思考
 - モノのデザインを思考してきたデザイナー思考をサービスに応用すること
 - デザインの目的は「課題解決」×美的感覚、人間中心（使う人の共感）
- ・DECIDIM
 - 参考 スペインのバルセロナでは1960年代にデジタル庁が設置された
 - DECIDIMは、スペイン発の市民参加プラットフォーム
 - 多様な地域課題について住民意見を集約するしくみ、議論の場を提供する
 - 日本では、加古川市、渋谷区等の導入事例あり
 - しくみの導入前に、日常的に話し合う環境が前提になる
- ・民主主義で決めること
 - 東京一極集中の是非
 - 経済的効率か、国土の保全か
 - 政治や上から目線ではなく、個人の選択
 - 所有から利用へ
 - それぞれの地域の未来像を、地域の住民が創ること
- ・地域生活圏～「中核市」の新たな役割
 - 地域の中核都市を核とした圏域で考える
 - 地域経済循環の構築、官民連携による地域経営、ローカルマネージメント法人、エネルギーの地産地消など
 - 近年は、ゼブラ企業（企業利益追求と社会貢献を両立させる企業）を目指す会社も多い
- ・つながることで、地域のポテンシャルと幸福度は上がる

＜パネルディスカッション＞

第1会場 「スポーツを通じた楽しいまちづくり」

コーディネーター	福井工業大学工学部建築土木科	教授	吉村 朋矩 氏
コメンテーター	日本経済研究所	執行役員	小原 爽子 氏
パネリスト	富山市長、西宮市長、福井市長		

- ・富山は、多様なスポーツ環境の整備により交流人口増加、
スポーツで育む行動変容
- ・西宮は、 premiya(プレイ西宮)、スポーツでつくる誇りの循環、
スポーツを通じた楽しいまちづくり

- ・ 福井は、スポーツが描く新しいまちの景色、
ダンス、マラソン、スポーツコミッション、アリーナ整備構想など、
スポーツは社会の触媒となる万能コンテンツ
- ・ スポーツは、まちと市民を元気にする
- ・ 人間が生き生きできる環境こそが、まちづくりの原点
- ・ 人の感情までデザインするまちに向けてスポーツを活用したい

第2会場 「地域に密着した安心な福祉体制のあり方」

コーディネーター 福井県立大学社会福祉学科 准教授 永井 裕子 氏
 コメンテーター 福井大学大学院工学系部門 准教授 菊池 吉信 氏
 パネリスト 岐阜市長、豊田市長、松江市長

- ・ 岐阜市は、すべての人に居場所と出番を、ひきこもり支援の取り組み
- ・ 豊田市は、地域に密着した安心な福祉体制、地域共生社会、
つながり合える地域、安心な暮らし、生きがい(社会参加支援)、
庁内連携+官民連携
- ・ 松江市は、みんなでやらこい福祉でまちづくり、夢を実現できるまち誇れるまち、
多様な主体による地域づくり、
公民館を通じて住民主体の地域福祉活動
- ・ 住民自らが参加したいと思えるしくみが大切
- ・ 多様なスタイルの重層的なしくみも必要

第3会場 「元気×イノベーション」～未来を創る地域づくり～

コーディネーター 仁愛大学コミュニケーション学科特任教授 南保 勝 氏
 コメンテーター 福井商工会議所／福井県経済団体連合会 嶋田 浩昌 氏
 パネリスト 山形市長、八王子市長、吹田市長

- ・ 山形市は、文化を活かした山形発イノベーション、文化創造都市、
やまがたクリエイティブシティセンターQ1（キューイチ）、
- ・ 八王子市は、地域の魅力を未来へつなぐ～イノベーション都市・八王子の実現
プロダクト・プロセス・マーケティング・組織のいずれかに変革を、
大学との連携によるイノベーションの創出
- ・ 吹田市は、まちづくりポリシーを持ち、獲得すべき副次効果を狙う
構想の前に「理念」があるべきである
理念は、人口増、税収増を目的としない、市の格を上げる、
固定資産税非課税施設の副次効果、地域のエリア価値向上
- ・ イノベーションこそが経済発展の原動力、技術革新ではなく組合せ・新結合
- ・ 創造的破壊ともいえる、無から有ではなく、作り変えることもイノベーション
- ・ 単一の地域資源だけでは立ち行かない現状～新たな組み合わせで価値創造
- ・ 地域の文化・哲学・独自性などをベースにしたイノベーションであるべき
- ・ 若者・高齢者・大学・医療等々との連携が大切
- ・ 中核市こそがイノベーションのエコシステムとして最適

＜中核市サミット福井宣言 2025＞

- ・以下のサミット宣言案が提案され、採択された

中核市は、地域の中核都市として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

人口減少、少子高齢化の急速な進行と、社会・経済環境の目まぐるしい変化により、中核市の役割が多様化する中、市民の暮らしの質をさらに高めていくためには、様々なニーズに柔軟に対応するとともに、地域資源を活用し、新たな価値や魅力の創出に取り組むことが重要です。

本サミットでは、「幸福を実感できる中核市の実現～一人ひとりが紡ぐ 希望あふれるまちづくり～」をテーマに、「スポーツを通じた楽しいまちづくり」「地域に密着した安心な福祉体制のあり方」「『元気×イノベーション』～未来を創る地域づくり～」に焦点を置いて議論を行い、次のとおり、全国の中核市が連携して取り組むこととしました。

1 心身の健康増進やシビックプライドの醸成、人と人をつなげる力など、スポーツが持つ多様で豊かな価値を再認識し、観光や教育、地域交流など他の分野と融合させることで、地域の魅力を高めて活性化につなげていく「スポーツを通じた楽しいまち」を目指します。

2 日々の暮らしの中でさまざまな困難に直面している市民を包括的に支援し、人と人とのつながりや自分の居場所を持てる環境づくりを進めることで、誰もが住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる「地域共生社会」の実現を目指します。

3 多様な主体と連携し、地域資源を活用した「地域発イノベーション」を創出・展開することで、地域課題の解決や産業の振興につなげ、自律的かつ持続的に発展する「未来を創る元気な地域」を目指します。

中核市62市の人口は約2,228万人となり、全国における存在感と地方自治の理念の実現に向けた中核市の責任は、今後ともより一層大きくなっていきます。

私たち中核市は、地域の持続的な発展に向けて、責任と権限を十分に活かしながら、市民一人ひとりの想いを紡ぎ、ともにまちづくりを進めることで、市民が幸福を実感し、希望あふれるまちの未来につなげていくことを、ここに宣言します。

令和7年10月30日 中核市市長一同

(6) 呉市での展開の可能性

- ・人口減少問題という共通の課題の中でまちづくりを進める際に、中核市の果たすべき役割は大きいということを、本市においても共通認識とすべきである。
- ・今回は、スポーツ、福祉、イノベーションを切り口に、幸福を実感できる中核市をどう実現していくかが議論されたが、まず「理念」を持つこと、多様な主体と連携した「地域共生社会」を目指すこと、「地域資源」を複合的に有効活用した変革を目指すことが必要とされ、本市においてもこの考え方を重視したい。

／以上